



2024 年7月

栃木県テニス協会 理事長 吉井正光

TTA レポート(No.131)

暫くぶりのレポートです。

今年も5月に関東オープンテニス選手権大会ベテランを県総合運動公園で主管開催しました。昨年と同様に男子80、85歳、女子65、75、80、85歳という国内最高年齢の種別で全日本を目指す選手たちがしのぎを削っていました。

本県にも男子80歳にエントリーした佐藤久和選手がシングルスベスト4という戦績を収められました。大会を通してテニスは生涯スポーツであることを改めて認識し、来年度の主管開催に手を挙げていきたいと思っています。

また、今年度は栃木県スポーツコミッションと連携して各地からエントリーしてくる選手に本県の魅力をPRする機会を得ました。大会が約1週間に亘ることから滞在期間の経済効果を期待しての取り組みでした。それがどこまでの実績に結び付いたかは分かりかねますが、今後も栃木の魅力を発信する一助になればと思います。

話は変わって、今年度から国民体育大会が、国民スポーツ大会に呼称が変わりました。略して国スポと呼んでいます。

栃木県の代表選手選考を行い、成年の部男子は海野選手(駒大)、真中選手(亜大)が代表に選出されました。女子は森崎選手と今西選手(県スポーツ指導員)が選手とされております。

少年の部では、江原選手(足大附高)、柳沢選手(足大附高)が選出されました。女子では石井選手(浦和麗明高)、平野選手(星の杜高)が選出されました。

選考大会において特筆すべきことは成年男子の海野選手は、昨年の鹿児島特別国体において少年の部代表選手でした。この選手が成年の部の代表になるということで、少年の選手が確実に力をつけていることに将来に期待が持てると感じました。

少年の部においては、中学3年生の安生選手が並みいる高校生を撃破しての3位につけました。女子においても岡田選手が高校2年生で3位につけるなどこれも将来につながる状況ではないかと感じました。

本県でも少子化の影響かテニス人口の減少は否めず、県内大会への参加者数減少を危惧する声は少なくありません。そんな中でもこうした若年選手が着実に育っていると感じられ将来へ期待が膨らみます。





2024 年 10 月

栃木県テニス協会 理事長 吉井正光

TTA レポート(No.132)

今年の国民スポーツ大会2024SAGA で成年女子が優勝しました。森崎可南子選手と今西美晴選手で臨んだ今大会は圧倒的強さを見せてくれました。成年女子は栃木で5位、鹿児島で3位となり佐賀で優勝、これまでの悔しさを晴らせた大会となりました。

それに続き少年女子がベスト8になりました。こちらも石井絢選手と平野愛実選手が昨年の鹿児島を超える結果を収めました。

成年男子と少年男子はともに1回戦を突破し2回戦に進みました。成年の部では海野優輝選手が大学1年生、真中翔楊選手は大学3年生、少年の部では江原叶碧選手が高校1年生、柳沢昊選手が高校3年生という若手を含む布陣で臨んだ結果には将来性を期待して良いのではないのでしょうか。

こうして今年の国スポは終了しましたが、私たちは来年に向けた取り組みを始めています。

日本サッカーの父と呼ばれているデットマール・クラマー氏は「タイムアップの笛は、次の試合へのキックオフの笛である。」と仰っています。来年の滋賀国スポで新たな戦力を育てることがとても重要なことだと思います。

まずは国スポ代表選考大会に臨んだ選手に最近の大会成績を考慮した選手を集め強化練習会を始めています。

いっぽうでジュニア大会の参加者減少が顕著になっています。中でもオープン大会における県内選手が上位に残れる割合が激減しています。これは県全体で取り組まなければならない大きな課題です。

このような傾向に対する普及活動として県主催大会日程の中にテニスクリニックを組み入れ、多くの方にテニスを楽しんでもらう取り組みを始めているほか、お子さんとご家族向けにプレイ&ステイを実施し、すそ野を広げる活動を継続していく中で将来の有望選手発掘と育成が実現できればと思っています。





2025 年 1 月

栃木県テニス協会 理事長 吉井正光

TTA レポート(No.133)

新年あけましておめでとうございます

旧年中は多大なるご支援を賜りありがとうございました。

2024年を振り返りますと、最大の報告事項として国民スポーツ大会佐賀で成年女子が優勝したことです。また少年女子が8位という好成績であったことも素晴らしかったです。男子においても1回戦を突破しベスト16入りできたことは今後に期待を抱かせる事と評価して良いのではないのでしょうか。

さて、TTA としての1年間は従来どおりの事業が滞りなく実施できたことに加え、普及事業の充実があったと感じています。その中で障害者との交流が初めて実施できました。これは地元新聞に記事が掲載されました。今後は障害者スポーツにも関わっていけたら TTA 会則に掲げた「テニスの普及・振興・競技力の向上を目指し、以て県民の心身の健全な発達に寄与する」ことにつながるのではないかと思います。

2025年の具体的な活動方針は、従来どおりの事業を継承するのではなく、新たな発想で魅力ある事業を展開していきたいと考えています。それには魅力ある大会とは何かを TTA 全体で考えて実行していくことだと思います。事業の企画、遂行を複数人で行いそれを TTA として責任を担保するという態勢で臨みます。

これらを実現していくには意思決定の過程を明確にしていくことが大切で、内部組織の意思疎通を良くしていかなければなりません。これには報告・連絡・相談の大切さを再認識し事業を進めていきたいと考えています。自らを見直し変化を恐れず強い組織づくりに邁進します

今年は巳年です。巳(蛇)が脱皮をすることから TTA が自らの殻を破り新しい挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示していければと思っています。





2025 年 1 月

栃木県テニス協会 理事長 吉井正光

TTA レポート(No.134)

年が明けて早々に様々な事件が報じられています。これらはテニスに直接の影響はありませんが、我々競技団体としては自らを省みて襟を正すべき事柄と捉えるべきかもしれません。

これらの事柄に共通して言えることは、権限集中による独裁的組織構造と優越的立場を振りかざした態勢により誰もが口を噤んでしまう構造が出来上がってしまった事ではないでしょうか。また、これらを相互牽制する仕組みが整っていない事もあるのではないのでしょうか。

当協会では行動規範を定めて「法令順守」や「社会的規範の尊重」を謳っているほか「人権の尊重」も言及しています。これらは当協会の会則条項にある「県民の心身の健全な発達に寄与するとともに、会員のスポーツ活動環境の向上と親睦を図ることを目的」を達成するために最低限守らなければならない事として掲げています。

それが実現できているかどうかは大会参加者の評価に委ねなければなりません。

テニスではすでに全豪オープンが始まっています。日本選手の活躍を期待したいところですが、世界の壁は厚くて高いことを見せつけられています。しかし、これからの選手がその壁を越えていくことを信じてテニス界を盛り上げていきたいと思っています。

栃木県からは柚木武選手が全豪に挑んでいたりと、本田尚也選手が国内外の大会で好成績を収めていることは地元紙で報じられてご存じの方も多いと思います。

私たちはこうした選手に続く選手を発掘し育てていく使命があると思います。それには協会全体で情報を共有し意思疎通を図ることが大切だと感じています。

今年は巳年なので蛇の脱皮に喩え自らの殻を破ると申し上げましたが、自分の足元を見ていくことの大切さを再認識しています。

